

# 8流派の 力作一堂

花材多彩、90点



春から初夏の花材を華やかに生けた作品が並ぶ市華道展

市内8流派の生け花が一堂に並んだ「市華道展」(市文化協会華道部主催、山陽新聞社後援)が13日、市総合文化センターで始まった。春から初夏にかけての花材を思い思いに生けた作品が会場を華やかに彩り、訪れた愛好者を楽しませている。15日まで。

「響」をテーマに、つ出品。木枠につるし池坊、嵯峨御流、御室 た花器に黄色いキング流、一生流、桑原専慶 サリヤドクタミの葉を流、草月流、専敬流、挿した自由花や、二つ小原流の90人が1点ずつの花器に別々の種類のヒマワリを生けてタニワタリの葉でつなげるなど、伝統の流儀と斬新な発想を併せ持つ力作が並んでいる。

入りに、池坊の春までに閉館となる予定。市文化協会華道部

7人によるイタヤカエ定。市文化協会華道部デヤフジ、カキツバタの嘉陽初子会長(77)などを組み合わせた高玉は「ここの華道

約2・5坪、幅2坪展は今回が最後となるの大作を展示。玉野高一抹の寂しさはある華道部もガーベラ、アが、思い出深い会場で

ウなどの花材にビー玉心に響いてくれれば「と話している。

午前9時〜午後5時(15日は同4時)。入

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。